

パイプオルガンについて

質問(小池清二議員)パイプオルガンの設置について伺います。
 答弁(産業文化部長)平成二十一年二月に那須野が原ハーモニーホールパイプオルガン設置準備委員会を設置し、パイプオルガンの設置時期、機種、規模及び設置業者、発注に関することなどを検討してまいりました。また、同委員会設置要綱に基づき、平成二十一年八月にパイプオルガン選定専門部会を設置し、専門家を交えて詳細な検討を進めてきたこと

ろです。
 今年四月にパイプオルガンの代理店に対しましてパイプオルガン製作会社七社と四十ストツプ(パイプオルガンの音色の数)で対応が可能か交渉を進めるよう依頼し、五月十八日には、パイプオルガン製作会社四社から提案があった旨の回答がありました。七月中にパイプオルガン設置準備委員会及び選定専門部会等での議論を経た上で、最終的には那須野が原文化振興財団理事会

に諮り、適切に判断していただき、事務手続を進めてまいりたいと考えております。
 なお、パイプオルガン基金の積み立てについては、平成八年三月二十二日に財団において那須野が原ハーモニーホールパイプオルガン基金規程が制定され、基金の造成が始まりました。平成二十二年三月三十一日現在の基金の総額は一億九百六十九万九千四百九十五円であります。基金の内訳は、大田原・那須塩原両市の出資金九千六百六十二万円と寄附金約千六百八十八万円、利子約百八十万円であります。なお、寄附いただいた件数は四百七十一人となっております。



パイプオルガン設置の準備が進む那須野が原ハーモニーホール



安心した生活のため緊急通報装置の貸与を行っています

緊急通報装置について

質問(鈴木徳雄議員)緊急通報装置について伺います。
 答弁(市長)ひとり暮らし高齢者または高齢者世帯が家庭において急病や災害等の緊急時に迅速かつ適切な対応を図り、安心して生活できるよう緊急時の連絡用として緊急通報装置の貸与を行っています。緊急時に迅速に申請者宅に向き、状況を確認し、必要な措置をとることができる協力員(おおむね三人以上の登録)を必要としております。この緊急

通報装置は、利用者が緊急の連絡をしたいときにペンダントのボタンまたは電話機のボタンを押すことにより、緊急通報装置の管理センターに連絡が入り、利用者の通報内容を確認し、必要に応じて救急車等の手配及び身内などの緊急時に登録をした協力員に連絡が行くようになっております。平成二十二年三月末現在、三百六十八名の方が緊急通報装置の貸与を受けている状況です。緊急通報装置の周知について

は市のホームページへの掲載や、老人会の会合、民生委員会会議等で制度の説明を行いまして、民生委員がひとり暮らしの高齢者等への訪問時に説明をしていただいております。また、緊急通報装置の必要とする方を対象に居宅介護支援事業所ケアマネジャー、地域包括支援センター職員が自宅を訪問し説明及び申請の手続をしているところでございます。今後緊急通報装置の申請手続等につきましても市広報に掲載をし、さらに市民の皆様へ周知を図ってまいりたいと考えております。